

## 国際交流員のコラム

### ●春の訪れを告げる「梅」●

—鹿児島県国際交流員 ウォン・イミン（シンガポール出身）—

まもなく早春がやってきます！

冬の寒さから春の活気へ、再び暖かさと花の季節になります。先日、穏やかな春に包まれる吉野公園を訪れまして、鮮やかな梅の花を楽しむことができました。

春といえば、桜の季節を思い浮かべる人が多いでしょうね。毎年春になると、桜の見頃、満開や花見会などの話題がどこでもあります。特に海外からの目線で、桜は日本の春を代表する花と言っても過言ではないぐらい認識があります。

しかし、日本の文化と歴史に同じような深く根ざして、似たような花が他にもあることをご存知ですか？

梅は、冬が終わって最初に咲く花として、春の始まりを告げる花です。品種にもよりますが、鹿児島では2月から3月頃に見ることができます。



鹿児島紅梅



桜と同じように、梅にもさまざまな品種があり、色は白から濃いピンクまで幅広いです。また、真っ赤な「鹿児島紅梅」という紅梅もあり、濃梅色をした梅の代表品種です。

梅の花は桜と違って花びらに切れ込みがなく、5枚の丸みを帯びています。そして、強い甘い香りがするのが梅の花の特徴です。

梅の花の起源は、奈良時代に遡り中国から日本に渡来し、その美しさと象徴性により、すぐに人気を博しました。

中国では、梅の花は持久力、勇気、忍耐力、信頼性を意味し、また冬の終わりや春の迎えも表現しています。春を迎えるということは、農繁期も迎えるということなので、繁栄の象徴でもあります。その意味で、旧正月のお祝いによく使われるモチーフの一つです。シンガポールでも、旧正月の時期には梅の花をモチーフにした飾り付けをよく見かけます。

日本では、歴史家によると梅の花を愛でる営みがお花見の原点とされています。奈良時代から平安時代初期にかけては、梅が春の花として定着していましたが、平安時代中期になるともう桜に取って代わられました。



「桜切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿」という梅と桜についての面白いことわざも最近習いました。桜の場合は、枝の切り口から菌が入りやすく腐りやすいため切らない方がいいそうですが、梅の場合は無駄な枝を切らないと樹形が崩れてしまいます。似ていますが、個性に応じた手の掛け方をすることが大切という意味を持っています。確かに梅と桜の見た目は一見似ていて、混同しやすいですね。



吉野公園から出るとき、綺麗な梅の花を最後に振り返りました。梅の次は、順番待ちの桜と続き、その後も多種多様な花の出番が続いていきます。その時をまた楽しみに待ちたいと思います！